

健食原料に秋田産アケビ

坂本バイオ 体重増加を抑制

食品・化粧品素材の研究開発型企業である坂本バイオ（秋田市、後藤孝宏代表）は、植物アケビの果皮利用による健康食品原料ビジネスを始める。秋田大学と共同で機能性にかかわる研究開発を進め、体重増加抑制など健康と美容効果を確認した。健康食品やサプリメントメーカーへの採用提案活動を開始するとともに、自社による一般消費者向けの配合製品も販売する。原料のアケビ果皮は秋田県産に限定し、地域に根ざした新たな産業創出を目指す。

坂本バイオは乾燥粉末状で、健康食品向けに取り扱いの容易な原料を開発した。

同社は秋田大学とアケビの果実に着目して、さまざまな部分に含まれる成分について、2007

年から機能性を追求する共同研究を開始している。さらに東北経済産業局の実施した「2010年度地域イノベーション創出研究開発事業」で、あきた企業活性化センターを管理法人とするコン

ソシウムに参画し、研究と事業化に向けエビデンスにかかわる試験を重ねてきた。

試験による評価では、アケビの果皮に体重増加抑制効果につながる、脂質代謝に影響する脂質分

解酵素リパーゼの活性阻害する作用のあることが分かった。腸管からの脂肪吸収を抑える機能を発揮することで同効果が期待できる。また動物実験では、内臓脂肪の蓄積を抑制する効果も確認できたとしている。

アケビは果実が食用に利用されるなど、日本では古くから馴染み深い蔓性落葉低木の植物。同社では素材供給によるBtoBを計画しており、高品質な秋田県産アケビに

よる原料ビジネスの差別化につなげていく。

坂本バイオが並行して研究開発を進めているアケビ種子油でも、9月めどに商業生産を開始する計画。同種子油には、ジアシルグリセロールアセテートが豊富に含まれ、太りにくい油脂として期待が大きい。生産後の流通段階で劣化しやすい問題があったが、安定性を維持する生産技術を確認できた。

9月16日から秋田市で開催される「日本資質栄養学会大25回大会」の企業展示に、同種子油を出展する予定。